

令和4年度文部科学省委託事業  
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

# 留学生に関する 実態把握アンケート調査報告書

日本語教育機関対象

令和4年10月調査

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

## ◇調査方法

調査対象：日本国内の日本語教育機関  
調査方法：インターネット調査（アンケート）  
調査期間：2022年10月14日～27日  
回答数：102

## ◇INDEX

P01	1. 調査概要／INDEX
P02	2. 回答者属性
P04	3. 本調査
P04	1-1 留学生の入国状況
P05	1-2 入学辞退状況
P06	1-3 在籍延長状況
P07	1-4 卒業予定状況
P08	1-5 現在の課題
P09	2-1 入学待機者への学習ケア
P10	2-2 留学生の心配・悩み
P11	3-1 留学生の進路
P12	3-2 進学先への要望
P15	3-3 進学先エリアの選定
P18	4-1 政府や自治体への要望
P19	4-2 専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待
P20	4-3 大専各への意見や要望

# 2 回答者属性



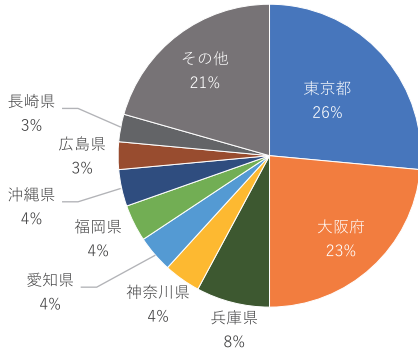
## ◇設置者および収容定員・在籍者数

回答数：102件

在籍者数：日本語教育の学科対象	収容定員数：日本語教育の学科対象							総計	割合
	100人以下	200人以下	500人以下	1,000人以下	1,500人以下	2,000人以下	2,001人以上		
学校法人立	29.7%	21.6%	35.1%	13.5%	0.0%	0.0%	0.0%	37	36.3%
100人以下	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16	15.7%
200人以下	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9	8.8%
500人以下	0.0%	0.0%	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%	11	10.8%
1,000人以下	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1	1.0%
1,500人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%
2,000人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%
その他法人立（株式会社立）	20.4%	25.9%	33.3%	14.8%	1.9%	1.9%	1.9%	54	52.9%
100人以下	55.0%	20.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20	19.6%
200人以下	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15	14.7%
500人以下	0.0%	0.0%	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11	10.8%
1,000人以下	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	6	5.9%
1,500人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	1	1.0%
2,000人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1	1.0%
個人立	9.1%	27.3%	45.5%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	11	10.8%
100人以下	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4	3.9%
200人以下	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3	2.9%
500人以下	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2	2.0%
1,000人以下	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1	1.0%
1,500人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	1	1.0%
2,000人以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%
総計	23	25	36	14	2	1	1	102	100.0%
割合	22.5%	24.5%	35.3%	13.7%	2.0%	1.0%	1.0%	100.0%	

## ◇学校所在地

回答数：102件



## ◇所属学生出身上位国・地域／今後募集に力を入れて行きたい国・地域

回答数：102件

	所属学生出身上位国・地域 (上位5つまで)		今後募集に力を入れて行きたい国・地域 (上位3つまで)	
中国	54.9%	56	53.9%	55
ベトナム	58.8%	60	37.3%	38
ネパール	52.9%	54	23.5%	24
韓国	2.0%	2	6.9%	7
台湾	10.8%	11	23.5%	24
ミャンマー	19.6%	20	18.6%	19
インドネシア	8.8%	9	20.6%	21
フィリピン	5.9%	6	2.9%	3
スリランカ	22.5%	23	5.9%	6
タイ	2.9%	3	6.9%	7
バングラデシュ	12.7%	13	12.7%	13
オーストラリア	0.0%	0	1.0%	1
ニュージーランド	0.0%	0	0.0%	0
米国	4.9%	5	5.9%	6
カナダ	0.0%	0	2.0%	2
欧州	3.9%	4	9.8%	10
ロシア	2.0%	2	2.0%	2
その他	16.7%	17	7.8%	8

## 2 回答者属性

◇「今後募集に力を入れていきたい国・地域」の選定理由をお教えてください。

回答数：70件

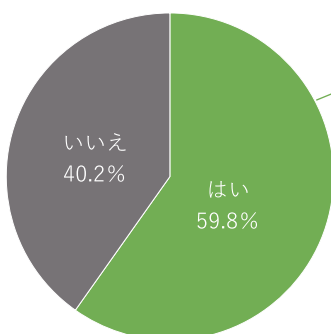
- ・経済的に困窮する学生の増加
- ・経費支弁の問題がある
- ・現地法人とのつながり
- ・関係教育機関ができた事
- ・入管申請書類が少ない
- ・希望者が多い
- ・学習意欲の高さ、VISA交付
- ・経済的に安定している
- ・日本への留学希望の学生が多いようで問い合わせをたくさんいただいているから
- ・世界情勢を考えると、どの国の学生も何かしらの課題を抱えているのが現状です。手広くやって様子を見るしかないと考えています。
- ・ビザ申請簡易国、かつ国籍の多様性を増やすため
- ・スタッフが同国人だから
- ・学生の国籍を増やしたい
- ・コロナで中国からの留学生が激減した。コロナ以前の状態に戻したい。
- ・対応体制を整える
- ・近年問い合わせが増えているため
- ・伝手があるため
- ・未開発の国の中で、まだ可能性があると感じている為
- ・選定した国の職員が在籍している
- ・東京入管の交付率の良さ
- ・比較的に経済的余裕のある学生が多く受入れの作業（申請業務）のほか、来日後のアルバイトの心配その他がないため
- ・近年、留学希望者が散見される。
- ・日本語学習者が多い、親日家が多い
- ・学内の国籍における多様性を強くするため
- ・人口増、経済発展
- ・新しい国・地域の学生募集はコストがかかるため、極力やりたくない。
- ・コロナ禍以前の人数に戻したい
- ・当校に多く在籍するネパールやスリランカ以外の国の学生も増やしたいため
- ・人口が多い国
- ・ベトナムの日本語センターと提携しているため
- ・本来の留学をしたい学生が多い国と思っているため。
- ・問い合わせが来ている
- ・これまでも入学した学生が多く、文化や生活が理解できる。
- ・多様な国から学生を迎えたいから。
- ・日本語能力向上度、留学生全体の意欲や質
- ・経済力、将来性
- ・留学希望者の人数と学習意欲を鑑みて。
- ・今後の志望増が見込まれるから
- ・大学院進学希望の学生が多いため
- ・入管のホワイト国にだから
- ・基礎的な日本語教育をしっかりと行っている留学院があるため
- ・日本への留学希望者が多いので
- ・将来介護に進む意欲のある学生を募集しているため。
- ・親日
- ・中国語以外の通訳は今では在籍していないため
- ・需要がある
- ・比較的に在留資格認定証明書の交付率が高い、在籍者の国別割合のバランス調整のため
- ・同じ漢字圏のため、日本語勉強の進捗も把握しやすいです
- ・特にフィリピンの学生は学習意欲が高く、礼儀正しく教職員から評判が高いため。
- ・在籍学生の国籍のバランスをとりたい
- ・人口も多く、日本留学熱が高いと感じるため
- ・認定されやすいから
- ・真面目な学生が多い
- ・様々な国籍留学生
- ・ベトナムが減少したから
- ・提携希望あり、今後の留学生増加見込み有
- ・今年度数名の学生を受け入れて、その学生が真面目なので国にいい印象を持っている
- ・実績が多いため
- ・入学問い合わせ増加国及び海外同窓会設置国のため
- ・漢字圏
- ・日本留学、技能実習生、特定技能などのニーズが、ミャンマーでも増えているから
- ・許可率が高い
- ・日本での教育（大学・専門学校）機会への期待が大きい国と思われるため。
- ・昔からその地域が対象のため
- ・韓国以外、漢字圏だから
- ・募集や受け入れのノウハウがある。
- ・中国は漢字圏の為、日本語習得力が高いため
- ・今後発展していく可能性があるため
- ・進学校のため、中国、台湾は必須。アメリカの学生が増えているので、引き続き募集を続けます。
- ・受入れ国を増やしたいから

(注釈：表記は原文ママ)

◇大専各「留学生委員会」への認知

回答数：102件

大専各「留学生委員会」が日本語教育機関と専門学校との交流会・セミナー開催などの活動をしていることを知っていましたか？



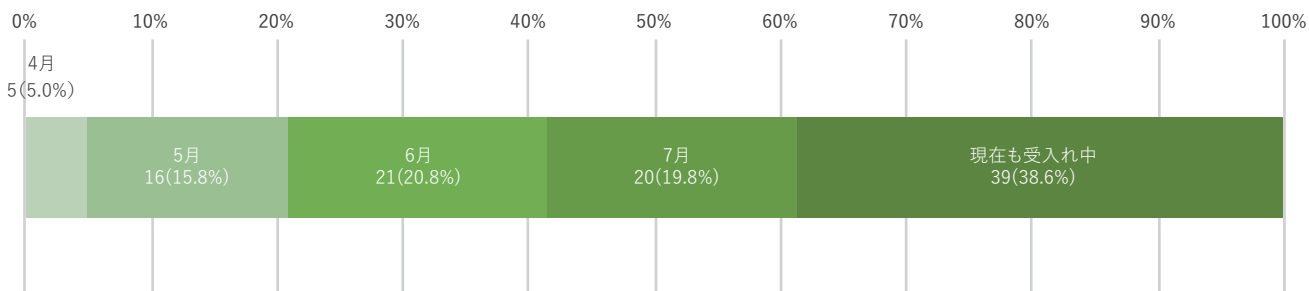
設置者	認知数	認知率
総計 (n=102)	61	59.8%
学校法人立 (n=37)	26	70.3%
その他法人立（株式会社立） (n=54)	30	55.6%
個人立 (n=11)	5	45.5%

## 1-1 留学生の入学状況

入国規制緩和による待機学生の入国開始後、2022年9月までにどれほどの留学生が入国したかを調査した。入国者数上限の段階的な引き上げもあり、61.4%の学校で7月までに入国完了を迎えている。一方で、38.6%の学校が「現在も受入れ中」と回答しており、エリア別で見ると東京・大阪入管エリアを中心とした大都市にある学校にその傾向が高いことがわかった。

◇入国規制緩和後、入国を待機していた学生の  
入国完了時期について教えてください。

回答数：101件

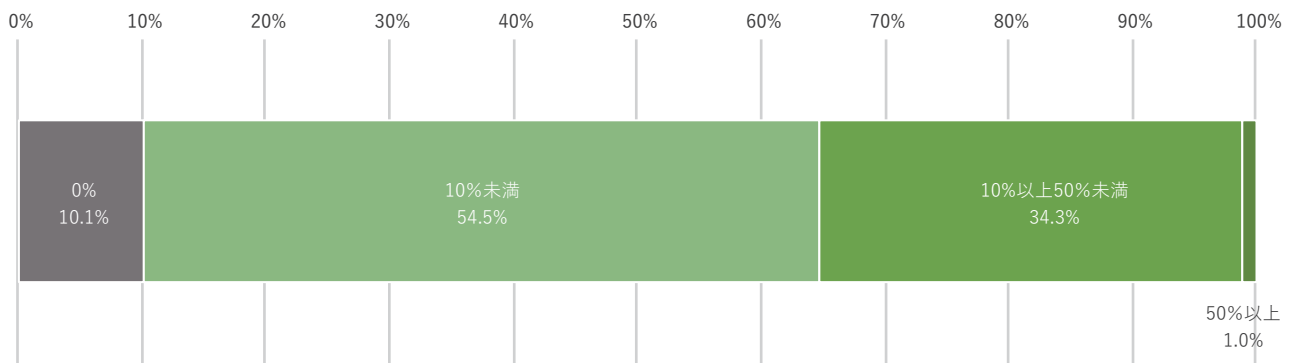


入管担当	総計	(n=101)	4月	5月	6月	7月	現在も受入れ中
札幌	北海道	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
仙台	宮城県	(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	福島県	(n=2)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
東京	栃木県	(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	群馬県	(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	埼玉県	(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	東京都	(n=26)	3.8%	7.7%	3.8%	26.9%	57.7%
名古屋	神奈川県	(n=4)	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%
	富山県	(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	静岡県	(n=2)	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	愛知県	(n=4)	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%
大阪	三重県	(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	京都府	(n=2)	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	大阪府	(n=24)	0.0%	12.5%	37.5%	12.5%	37.5%
	兵庫県	(n=8)	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	62.5%
広島	奈良県	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	岡山県	(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	広島県	(n=3)	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%
福岡	山口県	(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	福岡県	(n=4)	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%
	長崎県	(n=3)	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%
	大分県	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	宮崎県	(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	鹿児島県	(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	沖縄県	(n=4)	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%

## 1-2 入学辞退状況

次に、入国規制緩和後に入国するはずだった日本語学校入学予定者の中で辞退した学生の割合について尋ねたところ、「10%未満」もしくは「0%」の学校が64.6%、「10%以上50%未満」の学校が34.3%、また「50%以上」の学校も1%あった。

◇入国規制緩和後に入国するはずであった入学予定者の中で、  
留学をキャンセル(辞退・留学先の国を変更等)した学生の割合を教えてください。 回答数：99件



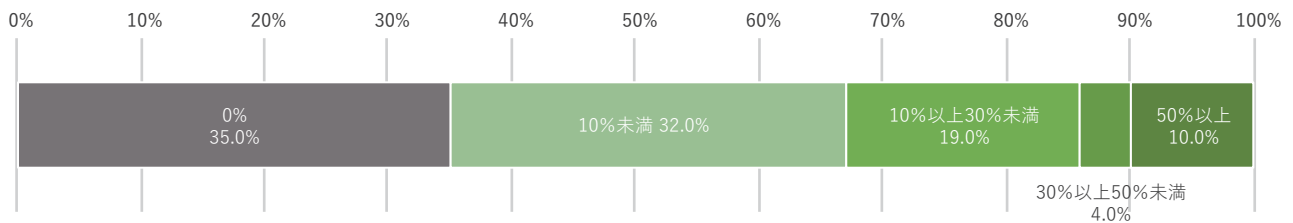
		0%	10%未満	10%以上50%未満	50%以上
総計	(n=99)	10.1%	54.5%	34.3%	1.0%
学校法人立	(n=37)	16.2%	54.1%	29.7%	0.0%
その他法人立 (株式会社立)	(n=51)	5.9%	51.0%	41.2%	2.0%
個人立	(n=11)	9.1%	72.7%	18.2%	0.0%

## 1-3 在籍延長状況

2022年4月以降の1年在籍延長者がいるかどうかについては、全在籍者に対する割合が「0%」・「10%未満」と回答した学校が合わせて67%に上る一方、「10%以上30%未満」19%、「50%以上」10%、「30%以上50%未満」4%と一定数の延長者がいる学校もあった。延長の理由として「入国遅れによる所定カリキュラムの未達」や「日本語能力の定着遅れ」・「希望の進学先に合格しなかった」など、主に学習時間の不足や語学力に課題があることを挙げており、コロナ禍における学習環境の影響が出ていることがわかった。

◇2022年4月以降の1年在籍延長者(22年3月に卒業しなかった学生)の、全在籍者に対する割合を教えてください

回答数：100件



	0%	10%未満	10%以上30%未満	30%以上50%未満	50%以上	
総計	(n=100)	35.0%	32.0%	19.0%	4.0%	10.0%
学校法人立	(n=37)	48.6%	32.4%	10.8%	2.7%	5.4%
その他法人立(株式会社立)	(n=52)	23.1%	30.8%	28.8%	3.8%	13.5%
個人立	(n=11)	45.5%	36.4%	0.0%	9.1%	9.1%

◇2022年4月以降の1年在籍延長者(22年3月に卒業しなかった学生)の、延長の主な理由を教えてください。

回答数：51件

### 〔学習時間の不足〕

- 十分な学習時間を確保しなかった。
- 半年以上遅れて入国した2020年4月生は学習期間がかなり短くなってしまったため1年在籍延長の措置をとった
- 今残っている学生たちの多くの学生は2021年1月期に入国しました。2022年3月時点では十分とは言えない学生もいましたし、続けての勉強を希望する学生もいました。
- 学習期間不足
- コロナの影響で進学準備に十分な時間を当てることができなかったため
- 学習がうまく進まなかった。(オンラインでの授業のため)
- 学習目標の未達
- 入国遅れにより、所定のカリキュラムを完了できなかったため
- 大学へ進学するに足る学力を身に付けるに十分な学習期間が確保できなかったため
- 学習期間の確保
- 入国遅れなどが影響し、希望する進学先に進むにはもう少し日本語力を上げる必要があったから。
- コロナ禍影響で、希望する学習目標に達しなかったため
- 来日時期のずれやオンライン授業による日本語力不足で、進学が難しかったため。
- オンラインで学習が不十分だと思った等
- 入国遅れ
- 日本語学習時間の不足
- 入国遅れによる日本語能力不足
- オンライン授業がながく日本語の定着が悪い

### 〔語学力〕

- 日本語力
- 日本語の能力を伸ばしたい
- 日本語を勉強したい
- 日本語の上達を目的に継続的な学習を希望
- 日本語能力の不足
- 目標の日本語レベルに達していないこと
- 進学に際して、日本語力が不足しているため
- 日本語習得に不足を感じたため

- もっと日本語を勉強したい
- 日本語学習の継続が必要と判断されたため
- 日本語力の未到達
- (本来の課程の)在籍中に、目標とする日本語能力に達しなかったため
- 日本語能力の上達のため
- 日本語学力がまだ不足していたから

### 〔進学・進路〕

- 進学のため
- 希望する進路に行けなかった
- いい大学と専門学校へ進学したい、日本語のレベル上達のため
- 進学を準備するため
- 大学院や大学に合格できなかったため
- 進学希望のため
- 進学のため
- 思うような進学準備ができなかったため。
- もっとハイレベルの大学を目指しているため
- 希望する進学先に合格できなかった
- 大学進学の為
- 目標校に入学できなかったため
- 進学校未決定
- より良い学校に行きたい
- 大学、大学院に合格出来なかったため

### 〔その他〕

- これまで、入国しないまま、本科に在籍し、リモート授業を受けてきており、本来の留学生活(対面授業)をしたい。
- 対面での授業機会を希望。目標とする日本語能力に達しなかったため。
- 目標に到達しなかったため。
- ①本来の進学先に行けなかった。②未入国のままオンラインを続け、経済的理由により休学を余儀なくされた。

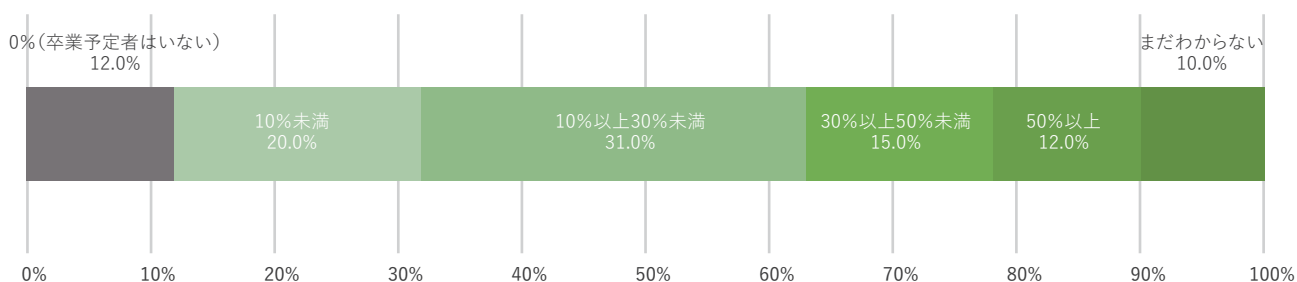
(注釈：表記は原文ママ)

## 1-4 卒業予定状況

現在の在籍学生のうち2023年3月の卒業予定者は「10%以上30%未満」が31%と最も多く、「10%未満」20%、「30%以上50%未満」15%と続く。「卒業予定者はいない」12%、「まだわからない」10%と回答した学校もあった。なお、設置者別に見たところ、特段の偏りは無かった。

◇現在在籍している学生のうち、2023年3月の卒業予定者の割合を教えてください。

回答数：100件



		0% (卒業予定者はいない)	10%未満	10%以上30%未満	30%以上50%未満	50%以上	まだわからない
総計	(n=100)	12.0%	20.0%	31.0%	15.0%	12.0%	10.0%
学校法人立	(n=37)	8.1%	18.9%	24.3%	16.2%	16.2%	16.2%
その他法人立 (株式会社立)	(n=52)	13.5%	19.2%	38.5%	15.4%	7.7%	5.8%
個人立	(n=11)	18.2%	27.3%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%

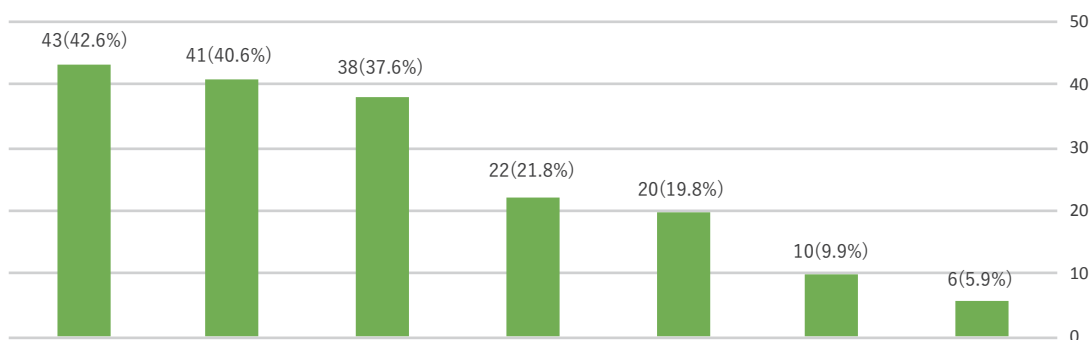


## 1-5 現在の課題

日本語学校の教員は入国規制緩和後の受入れの中、留学生対応についてどういった課題を抱えているのかを調査した。「入国時期が異なることによる日本語習熟度のバラつき(42.6%)」、「入国時期が異なることによるクラス分けの煩雑さ(40.6%)」と続き、次いで「教職員不足(37.6%)」が挙げられている。コロナ禍による入国規制が学生の状況に大きく影響。受け入れ側の教職員数の不足により、その課題は深刻となっている可能性がある。

◇現在の主な課題を教えてください。(複数回答可/2つまで)

回答数：101件



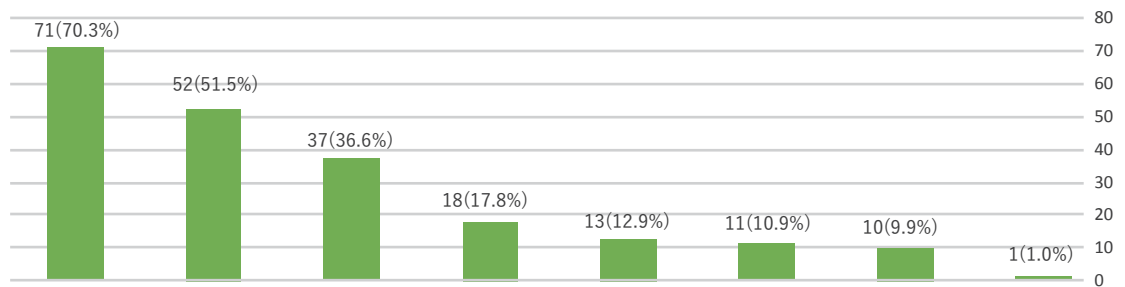
在籍者数：日本語教育の学科対象		入国時期が異なることによる日本語習熟度のバラつき	入国時期が異なることによるクラス分けの煩雑さ	教職員不足	学生募集	学生の生活基盤のサポート	学生の国籍や志望進路の変化への対応	その他
総計	(n=101)	42.6%	40.6%	37.6%	21.8%	19.8%	9.9%	5.9%
100人以下	(n=40)	37.5%	32.5%	35.0%	32.5%	25.0%	5.0%	10.0%
200人以下	(n=27)	59.3%	44.4%	29.6%	14.8%	22.2%	11.1%	3.7%
500人以下	(n=23)	30.4%	52.2%	39.1%	13.0%	17.4%	21.7%	4.3%
1,000人以下	(n=8)	50.0%	50.0%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1,500人以下	(n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2,000人以下	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 2-1 入学待機者への学習ケア

入国規制緩和前(母国での待機期間中)の学生に対するケアについて最も多い回答は「オンラインを利用したりリモート授業を実施」で70.3%。「現地の教育機関やエージェントと連携(51.5%)」「メールやSNS等での状況確認(36.6%)」などが続いた。「オンラインを利用したりリモート授業を実施」は大規模校ではほぼ導入されており、小規模校では「現地の教育機関やエージェントと連携」「メールやSNS等での状況確認」など細やかな対応をとるなど、全体として現地にいる待機者を繋ぎ止める策として多くの学校がコミュニケーションを重視していたことがわかった。

### ◇入国規制緩和前の入学待機者に対するケアはどのように行いましたか? (複数回答可/3つまで)

回答数：101件

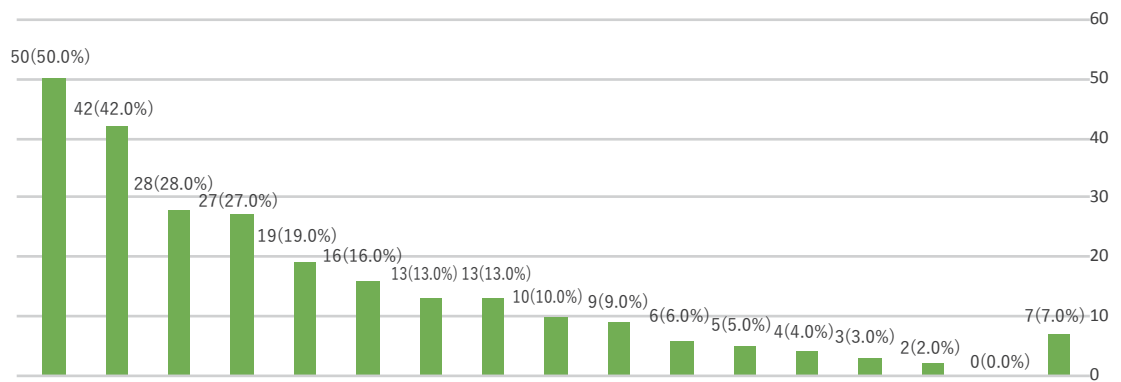


在籍者数：日本語教育の学科対象		オンラインを利用したりリモート授業を実施	現地の教育機関やエージェントと連携	メールやSNS等での状況確認	課題の添削	特に対応していない	確認テストを実施	動画などのオンデマンド授業	その他
総計	(n=101)	70.3%	51.5%	36.6%	17.8%	12.9%	10.9%	9.9%	1.0%
100人以下	(n=40)	65.0%	60.0%	42.5%	20.0%	15.0%	10.0%	7.5%	0.0%
200人以下	(n=27)	63.0%	59.3%	44.4%	11.1%	14.8%	11.1%	7.4%	3.7%
500人以下	(n=23)	73.9%	43.5%	21.7%	17.4%	13.0%	13.0%	13.0%	0.0%
1,000人以下	(n=8)	100.0%	12.5%	25.0%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%
1,500人以下	(n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
2,000人以下	(n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

## 2-2 留学生の心配・悩み

現在、日本語学校に留学生から寄せられる相談で多い悩みは「アルバイト探し」が50%、次いで「経済面の困窮(42%)」「日本語でのコミュニケーション(28%)」「就職先・進学先(27%)」の回答となった。学生の出身国・地域別に見ていくと、「アルバイト探し」「経済面の困窮」の項目でバングラデシュやミャンマー、スリランカ、ネパールの学生が多く、「就職先・進学先」の項目で中国や韓国などの比率が高い傾向にあり、出身国別に心配や悩みの違いが見られた。

◇今、留学生から相談の多い心配・悩みを教えてください(複数回答可/3つまで) 回答数：100件



所属学生出身上位国・地域	アルバイト探し	経済面の困窮	日本語でのコミュニケーション	就職先・進学先	メンタルヘルスの不調を抱えている	目標とする日本語レベルに到達できない	在留資格以外の行政の手続き	健康(新型コロナウイルスの感染不安)	就職活動	日常の学修進度	在留資格の手続き	日本人の友達がいらない	人間関係がうまくいかない	日本の文化や生活習慣になじめない	自分の信仰を守った生活が日本では難しい	学校以外に相談相手がない	その他
総計 (n=100)	50.0%	42.0%	28.0%	27.0%	19.0%	16.0%	13.0%	13.0%	10.0%	9.0%	6.0%	5.0%	4.0%	3.0%	2.0%	0.0%	7.0%
中国 (n=55)	34.5%	27.3%	36.4%	34.5%	27.3%	21.8%	10.9%	18.2%	12.7%	9.1%	7.3%	7.3%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	5.5%
ベトナム (n=60)	56.7%	51.7%	25.0%	21.7%	20.0%	18.3%	15.0%	13.3%	6.7%	5.0%	6.7%	5.0%	5.0%	1.7%	1.7%	0.0%	3.3%
ネパール (n=54)	66.7%	53.7%	24.1%	20.4%	11.1%	13.0%	14.8%	9.3%	7.4%	5.6%	7.4%	1.9%	7.4%	1.9%	1.9%	0.0%	9.3%
韓国 (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
台湾 (n=11)	9.1%	18.2%	9.1%	36.4%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	18.2%
ミャンマー (n=20)	70.0%	50.0%	30.0%	30.0%	20.0%	10.0%	20.0%	5.0%	15.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
インドネシア (n=9)	44.4%	22.2%	33.3%	22.2%	22.2%	22.2%	0.0%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
フィリピン (n=6)	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%
スリランカ (n=23)	69.6%	60.9%	17.4%	21.7%	8.7%	8.7%	13.0%	17.4%	8.7%	0.0%	8.7%	4.3%	13.0%	4.3%	8.7%	0.0%	4.3%
タイ (n=3)	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
バングラデシュ (n=13)	84.6%	46.2%	15.4%	46.2%	0.0%	23.1%	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%	15.4%
米国 (n=5)	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
欧州 (n=4)	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ロシア (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他 (n=16)	25.0%	37.5%	43.8%	18.8%	25.0%	18.8%	6.3%	25.0%	6.3%	18.8%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%

## 3-1 留学生の進路

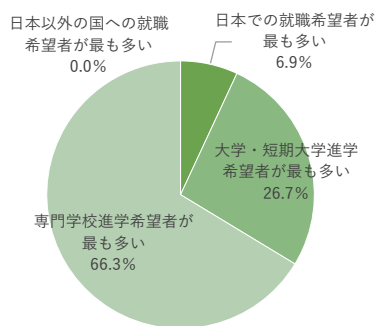
卒業後の進路は「専門学校進学希望者が最も多い」学校が一番多く66.3%、「大学・短期大学進学希望者が最も多い」学校は26.7%、「日本で就職希望者がもっとも多い」学校は6.9%だった。

これはネパールを中心とした非漢字圏の学生が急激に増えていることが影響していると思われる。

また、「進路指導」における今年の課題については「日本語能力が留学生の希望する進路で求められるレベルに達しない」が75%で最多。続いて「大学入試対策(43.8%)」「専門学校入試対策(24%)」が挙げられている。希望進路に見合う日本語能力が備わっていないことにより、大学・専門学校の受験対策にも影響が出ていることがわかる。

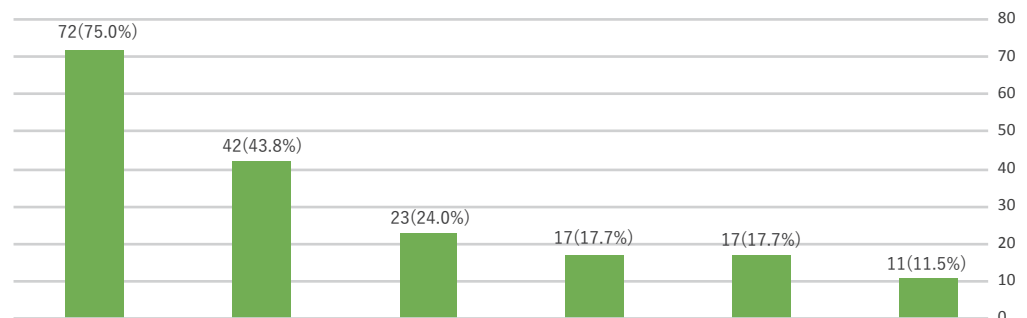
### ◇留学生の卒業後の進路についてお伺いします。

回答数：101件



### ◇留学生の「進路指導」についての今年の課題を教えてください。(複数回答可/3つまで)

回答数：96件



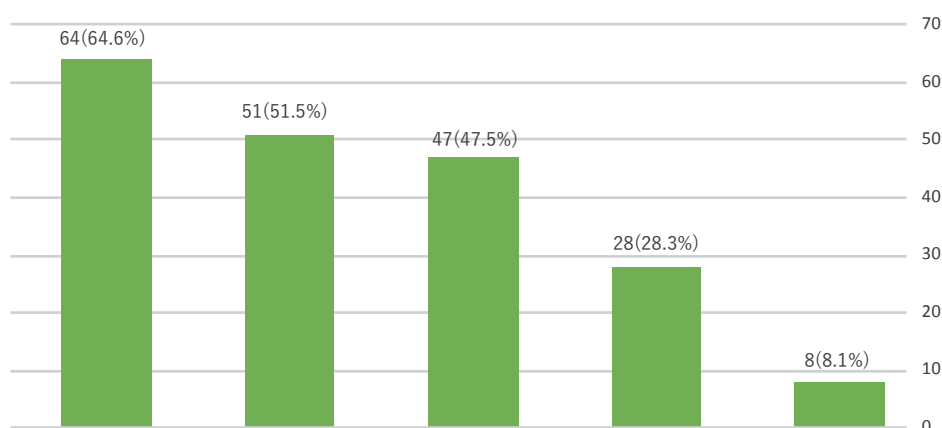
留学生の卒業後の進路		日本語能力が留学生の希望する進路で求められるレベルに達しない	大学入試対策	専門学校入試対策	留学生の希望する就職先からの求人がない	日本の就職活動の慣習を留学生に伝授すること	その他
総計	(n=96)	75.0%	43.8%	24.0%	17.7%	17.7%	11.5%
大学・短期大学進学希望者が最も多い	(n=27)	74.1%	63.0%	22.2%	11.1%	18.5%	14.8%
専門学校進学希望者が最も多い	(n=62)	72.6%	37.1%	25.8%	17.7%	16.1%	11.3%
日本で就職希望者が最も多い	(n=7)	100.0%	28.6%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%

## 3-2 進学先への要望

進学先の学校(大学・短期大学・専修学校)への要望については、「入学金や学費の分割や納期限の猶予」が最も多く64.6%。「奨学金の貸与など経済的な支援」も51.5%と半数を超えた。前項までの卒業後の希望進路別に見ていくと、「専門学校進学希望者が最も多い」と「日本での就職希望者が最も多い」学校で経済状況にかかる項目が多く挙がる傾向にあった。

◇進学先の学校(大学・短期大学・専修学校)への要望を教えてください。  
(複数回答可/3つまで)

回答数：99件



留学生の卒業後の進路		入学金や学費の分割や納期限の猶予	奨学金の貸与など経済的な支援	留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実	入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応	その他
総計	(n=99)	64.6%	51.5%	47.5%	28.3%	8.1%
大学・短期大学進学希望者が最も多い	(n=27)	29.6%	40.7%	40.7%	40.7%	18.5%
専門学校進学希望者が最も多い	(n=66)	77.3%	56.1%	50.0%	25.8%	4.5%
日本での就職希望者が最も多い	(n=6)	83.3%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

## 3-2 進学先への要望

◇「進学先の学校(大学・短期大学・専修学校)への要望」について  
具体的な理由を教えてください。

回答数：61件

[入学金や学費の分割や納期限の猶予]／[奨学金の貸与など経済的な支援]

- ・ 経済的に困窮する学生の増加
- ・ 経費支弁の問題がある
- ・ 経済面で困っている学生が多いので
- ・ 非漢字圏の学生は進学先の決め手が大概学費の安さや分納または奨学金制度などの経済的なことから
- ・ 日本留学を開始した時点と、進学する時点で経済的な状況が大きく変化する学生が今後は多数予想されます。その折は是非とも柔軟で暖かな対応をお願いしたいです。
- ・ 国際情勢により経済的に困窮している学生が増えているため
- ・ 経済的困難を抱えている学生が多いため
- ・ 学生に学費のストレスを減らして勉強をしてもらいたい
- ・ お金がない
- ・ 正解的な経済低迷により、留学した学生が思っている以上に金銭面が大変なため。
- ・ 一括で大金を支払うのが難しい学生が多い
- ・ 経済的理由
- ・ 経済的に苦しい学生が多いから。
- ・ 現在は、経済的な問題が最も大きいから。
- ・ お金がなくて困っている学生が多い、アルバイトも見つからない、経費支弁者が困窮している
- ・ 出願、入学申し込みまでにじゅうぶんな金額を準備できない者が多い
- ・ 世界情勢や天災や政治不安のため、留学生の経済的な支援が必要だと考えます。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、母国の経費支弁者の収入が安定しないため。
- ・ 経済的な負担が減れば(分納や減免)、入学するチャンスが増える。
- ・ 学費の工面に苦勞している学生が多い。入学金の準備、学費の支払い方法で学校を選ぶ学生もいる。
- ・ コロナの影響で経済面困窮の学生も増えたため
- ・ 進学先の学校を選ぶときも、合格した後の学費支払いの時にも必ず学費の相談を受けるため。また、学生から、この学校は奨学金があるかどうかの確認をよく受けるため。
- ・ 一度に大きな金額の納入が難しいため
- ・ 進学の時、負担がかかる
- ・ 母国との賃金の差があり、ある程度の学費をアルバイトで賄う予定のため
- ・ 留学(進学)の費用が高額なため
- ・ 学費の納入期日が守れない学生が多い
- ・ 経済的な減少
- ・ 国際送金規制などがあり、高額送金が難しい。国によっては英語学習をしない等学習課目が違う。日本国内でも地域によって生活環境が違う。
- ・ 日本語学校に通いながら進学先の学費をアルバイトでまかなう学生が多い
- ・ 経済面の苦しい留學生が多いため、経済的な支援制度があると進路選択の幅が広がる
- ・ 費用の面や学力、スケジュールの面で都合がつかず、進学を諦める学生を見ているから。
- ・ コロナ禍による家計逼迫や学習延長によって可能ならば支出を抑えたい
- ・ 学生の進学先選定条件として、やはり不安が大きいのが校納金額であるため。
- ・ 日本での生活が大変な留學生も勉強を継続しやすいようにするため。
- ・ 金銭的に余裕がない
- ・ 経済的に余裕のない学生が多いから。

## 3-2 進学先への要望

### [留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実]

- ある程度日本語能力を身に付けて卒業するとはいえ、留学生が住まいを自力で探したり、新しい土地でアルバイトを探したりするのは困難であるので、ある程度のサポートがあると送り出す方も安心できるため
- 留学生への全般的なサポートがある学校に進学させたいため
- 生活面での応援が求めている、卒業してからの就職が不安のため、就職支援も求めている。
- その他は、やればやるほど、それに甘える者が増え、最終的に留学生の為になっているのか疑問であるため
- 今後、日本の生活に慣れやすいためです。
- 学生から相談が寄せられる事柄であるため
- 経済的支援の縮小があるため
- 留学生に生活サポートが必要です。
- 新たに受け入れた国の学生は、まだその国からの学生が少ないため
- 専門学校等に進学することが目的ではなく、日本での就労を目指すために必要なサポートを受けられる学校に進学してほしいため。
- 日本で学んだあとは日本での就職を希望する者が多いが、確実に就職できるような仕組みを望む。
- メンタルが弱い学生が増えているので、入学後に大学生活に馴染むサポートがほしい。
- 大学によっては就職支援がほとんどないところもあるようなので。

### [入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応]

- 専門学校の募集は、4月生しかないため、本学別科への10月入学生は、1年間の修学年限修了後、専門学校進学のためには、もう半年待たなければならない。
- 試験の時期(出願から結果発表まで)が希望している2校で重なる等で断念せざるを得ないことがある
- 出願最低基準が示されていることが多いが、それだと受験すべきかどうかの判断が難しい。合格者のEJUの平均点などを公開している教育機関は、出願の検討がしやすいので、選びやすい。
- まだまだコロナ禍にあり、またこれからインフルエンザの感染者も増えるとされているため、入学試験の回数が増えれば感染不安も多少は解消される。
- 試験回数が増えると進学機会増につながるため
- コロナの影響による学力不足
- 入国規制による学習期間の影響のため入学試験の柔軟対応を望む。
- 2期受験に集中するため、留学生入試の回数が増えると指導しやすいため。

### [その他]

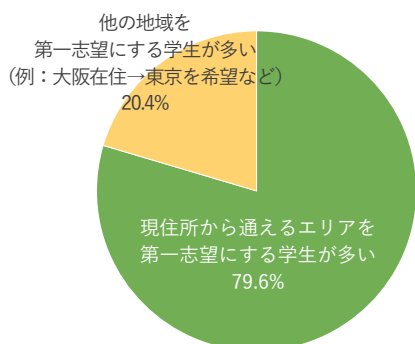
- 就職力、社会人基礎力の教育(進学、就職するときに日本人の学生よりも劣っている事が多いので、そこを磨くと日本の会社から見栄えが良いと思う。)
- 提出書類の簡略化(専修学校から、アルバイト先の明細を求められるが何の意味があるのか不明。仮にオーバーワーク有無の確認であれば、入学後も卒業まできちんと管理すべき。)
- 学習環境と研究環境の充実(一流大学院を目指す学生が多く、高い知識欲があるため)

## 3-3 進学先エリアの選定

進路選びに学校所在地がどの程度影響を及ぼしているかを調査した。79.6%が「現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い」と回答。留学生は進学先選びの際に学校所在地を重視していることがわかった。

### ◇進学先選びの一般論として留学生の現住所から通えるエリアの志望度は高いですか？

回答数：98件



学校所在地		現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い	他の地域を第一志望にする学生が多い (例：大阪在住→東京を希望など)
総計	(n=98)	79.6%	20.4%
北海道	(n=1)	0.0%	100.0%
宮城県	(n=1)	100.0%	0.0%
福島県	(n=2)	50.0%	50.0%
栃木県	(n=2)	100.0%	0.0%
群馬県	(n=1)	100.0%	0.0%
埼玉県	(n=2)	100.0%	0.0%
東京都	(n=24)	95.8%	4.2%
神奈川県	(n=4)	100.0%	0.0%
富山県	(n=1)	0.0%	100.0%
静岡県	(n=2)	50.0%	50.0%
愛知県	(n=4)	75.0%	25.0%
三重県	(n=1)	100.0%	0.0%
京都府	(n=2)	100.0%	0.0%
大阪府	(n=23)	95.7%	4.3%
兵庫県	(n=8)	87.5%	12.5%
奈良県	(n=1)	0.0%	100.0%
岡山県	(n=1)	100.0%	0.0%
広島県	(n=3)	100.0%	0.0%
山口県	(n=1)	0.0%	100.0%
福岡県	(n=4)	75.0%	25.0%
長崎県	(n=3)	0.0%	100.0%
大分県	(n=1)	100.0%	0.0%
宮崎県	(n=1)	0.0%	100.0%
鹿児島県	(n=1)	0.0%	100.0%
沖縄県	(n=4)	0.0%	100.0%



## 3-3 進学先エリアの選定

◇前問「現住所から通えるエリアの志望度」について理由を具体的に教えてください。

回答数：56件

[現住所から通えるエリアを第一希望にする学生が多い]

- ・転居による経済的負担を鑑みて
- ・生活基盤ができてきた
- ・仙台での生活を気に入る学生が多い。また、仙台で就職している先輩が多く、ネットワークがあり安心している学生が多い(特にネパール)。
- ・住み慣れているから。
- ・生活圏を変えたくないから(特に東京が生活圏だとそれ以外は地方という認識で何も無い田舎でアルバイト先もないと思っている学生が圧倒的に多い)
- ・もともと情報やチャンスの多さから東京を選ぶ学生が多いです。
- ・住居を移りたくない。入学金授業料の減額が可能。別科と同じ大学が隣の学校への進学を希望する学生が多い。
- ・環境に慣れている、生活しやすい
- ・引っ越しの手間(時間的、金銭的)
- ・本校に専門学科があるため本校の専門学科に進学する学生が一番多い
- ・アルバイトなど生活を大きく変えたくない。地方は時給が安い
- ・通学しやすいです。
- ・住居やアルバイト、交友関係などを変えたくないため。
- ・引っ越しにはお金、時間、労力がかかるため
- ・住み慣れているため、なかなか他の地域に行くという行動が難しい。
- ・慣れたところに住み、アルバイトも継続できること
- ・住み慣れた土地での進学を希望する傾向が高い
- ・慣れ親しんだ環境から離れたくないからだと思われる。
- ・外国において慣れ親しんだ場所から離れる不安は小さくないため。
- ・慣れたところが安心だから
- ・近いから。
- ・理由は不明だが、以前に比べて地元志向が強い
- ・選択肢がなかったため、aを選択したが、主に志望学科のある大学を選ぶため、エリアは重要ではない。
- ・生活基盤ができているから
- ・近隣に友人・先輩がいるため
- ・生活の安定や友人の有無、先輩の情報
- ・当校は東京にあり、このまま日本の中心である東京を希望するようです
- ・現住所とは限らないが、関西圏から出ようと考えている学生は毎年少ない。
- ・住みやすさを感じ、引っ越しをしたがらない
- ・住み慣れた場所にいたい、現在のアルバイトを続けたい、地方に行くと最低賃金が安くなるといった声をよく聞くため。
- ・居住しているエリアに馴染みがあるため
- ・学校の選択肢が多いため。
- ・特に非漢字圏の学生は一度築いたコミュニティから出たがらない
- ・引っ越し費用がかかるため
- ・日本語学校次第住む地方なれる。
- ・居住地が変わることへの不安
- ・今の環境(特にアルバイト)を大きく変えたくないとする学生が多いため
- ・同国籍の友人がいるため
- ・やはり、今住んでいるところが自身の日本での生活圏になっていると思われる。
- ・家賃が安い、通学費がかからない。
- ・現在のアルバイトの継続や土地勘など
- ・生活基盤やコミュニティができていて、近くの学校を選ぶ傾向がある。

## 3-3 進学先エリアの選定

〔他の地域を第一志望にする学生が多い(例:大阪在住→東京を希望など)〕

- ・私達が色々な地域に行って、色々な経験をしてほしいと話しているから。
- ・地域の進学先が非常に少ないため
- ・当校が沖縄にあるため
- ・親戚や知人を頼って他県を希望する学生有り。
- ・現住所から通えるエリアに大学や専門学校がない。
- ・近辺は専門学校や大学の数が少ないため
- ・周辺に他の日本語学校や留学生向けの専門学校が少ないため。
- ・友達などと一緒の地域に行く学生が多い。
- ・知人がいるから
- ・県内には専門学校・大学などが少ない
- ・地方にある学校なので都会に行きたいという学生が多い
- ・有名大学などを志望する学生が多いため
- ・現住所近辺での専門学校、大学数が少ないため。学問の分野も限られてしまうため。
- ・現住所のエリアに進学先の選択肢が少ないため。

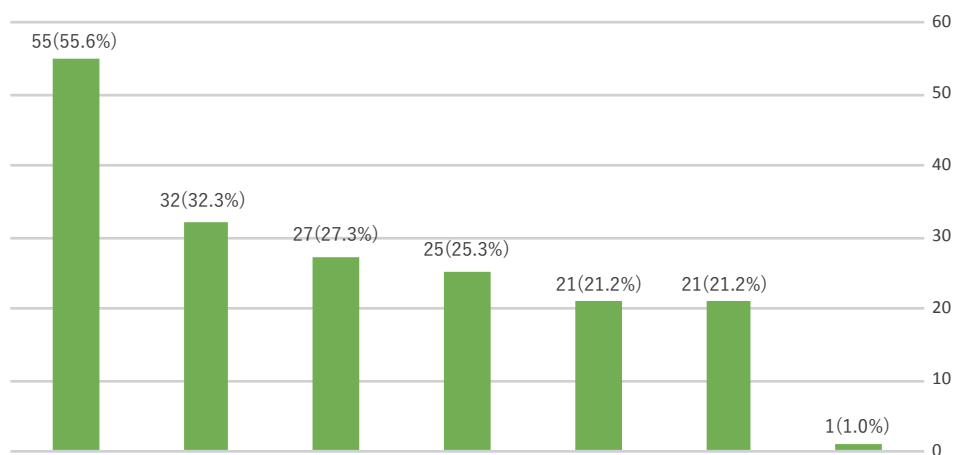
(注釈:表記は原文ママ)

## 4-1 政府や自治体への要望

政府や自治体に期待する支援や配慮としては、「経済面が逼迫する留学生への支援」が最も多く、55.6%。次いで、「学校経営を支援する各種制度の拡充(32.3%)」と続き、学校への支援以上に留学生本人へのサポートを望んでいることがわかった。

◇政府や自治体に要望したい支援を教えてください。  
(複数回答可/2つまで)

回答数：99件



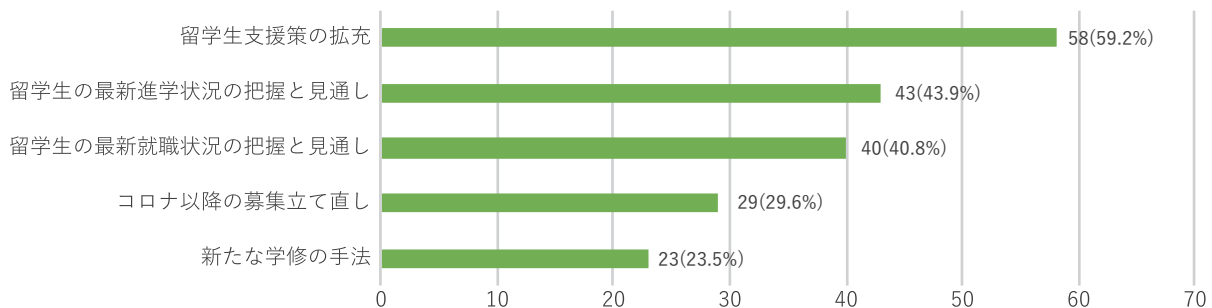
設置者		経済面が逼迫する留学生への支援(規制等への配慮、経済支援ほか)	学校経営を支援する各種制度(支援金ほか)の拡充	出入国管理行政に関わる制度等の改善	留学生の就職に関わる支援	留学生の進学に関わる支援	留学生向けの支援情報の多言語発信	その他
総計	(n=99)	55.6%	32.3%	27.3%	25.3%	21.2%	21.2%	1.0%
学校法人立	(n=37)	56.8%	32.4%	32.4%	24.3%	16.2%	16.2%	2.7%
その他法人立(株式会社立)	(n=51)	58.8%	25.5%	23.5%	27.5%	25.5%	23.5%	0.0%
個人立	(n=11)	36.4%	63.6%	27.3%	18.2%	18.2%	27.3%	0.0%

## 4-2 専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待

専門学校と日本語学校に関わるイベントに期待することとしては「留学生支援策の拡充」が最も多く、59.2%。「留学生の最新進学状況の把握と見通し(43.9%)」「留学生の最新就職状況の把握と見通し(40.8%)」はいずれも40%以上の学校が期待すると回答した。「コロナ以降の募集立て直し(29.6%)」は全体の3割程となり、徐々にコロナ後を見越した内容を求めるようになってきていることがわかった。

◇専門学校と日本語学校に関わるイベント(研修会、交流)等で、どのような内容を希望しますか?(複数回答可/3つまで)

回答数：98件



◇前問と付随して、どのようなイベントなら参加されますか? 自由にご回答ください。

回答数：34件

- ・オンライン
- ・スピーチコンテスト、研究発表等のイベントを開催。入選で賞金を与える
- ・上記の内容に基づきその都度直面している問題とリンクする講演かつこちらの都合がつけば参加したいと思います。
- ・学生の為にスタッフの意識改革に役に立てばなんでも参加したいです。
- ・日本語教師向けの効果的な学修手法を学べるイベント
- ・オンライン学習の方法、留学生支援の一環として、交流会や文化体験など
- ・失敗例を含め、専門学校等を卒業してからその先に向かうときに道筋がモデルケースとしてあるとわかりやすい
- ・支援金の説明会
- ・情報交流会
- ・専門学校の入り口と出口の詳細情報が知りたい。
- ・学校が離島にあるため、直接参加が難しい。オンラインで実施する場合は、授業の時間やアルバイトの時間と重なるため、参加が困難になる。
- ・現場で役立つ内容
- ・専門課程への進学希望者へのガイダンス
- ・学生募集に関するイベント
- ・留学生との交流に興味をもつ日本人学生との触れ合いの場。アルバイトの面接会。
- ・留学生に興味を持ってくれる日本人との交流
- ・学校にとってメリットがあるイベント。
- ・外国人学生対象の就職説明会
- ・オンデマンドの動画配信
- ・他の日本語学校や、進学先となる専門学校等との情報共有などができるイベント。
- ・学生の関心は日本での就職ができるかどうか、どんな仕事ができるか、なので卒業後の進路指導についての情報を教えていただきたいです。
- ・2~3校の実践例やその中で見えてきた課題の共有ができるイベント。
- ・オンライン形式の研修会
- ・特に教務としては進学に関する情報が欲しい
- ・学生との情報交換が出来る
- ・都会へ行くのは難しいため、オンライン参加できる機会があれば。
- ・具体的に卒業生がどんな分野、在留資格で就職しているのかなどわかるような交流会
- ・オンライン授業方法、ICT活用授業方法など
- ・進学・就職状況や、ビザ取得率など、具体的な数値で情報が得られるイベントに参加したい。
- ・毎年の大学・専門学校における留学生の募集条件と状況について
- ・日本語学校生を対象とした学校説明会
- ・具体的な奨学金の応募会など
- ・入試担当者に入試状況などを直接訊けるイベント
- ・留学生支援対策の具体例

(注釈:表記は原文ママ)

## 4-3 大専各への意見や要望

◇大専各に対するご意見ご要望などがありましたら自由にお聞かせください。

回答数：11件

- ・全学校の日本語力順位の統一試験を行ってほしい
- ・専門学校ガイドブックには掲載されていない留学生受け入れ校があると思うのですが、可能な限り網羅してほしいです。詳細の情報はなくとも、学校名や分野、留学生を受け入れているか否かなど最小限でも助かります。
- ・願書のフォーマットの統一。大専各の全ての学校が、同じフォーマットで出願を受け付けるようになれば、留学生にとって利便性が高く、出願しやすくなる。
- ・入国制限が緩和され、漸く2023年度4月期生の募集に明るい兆しが見えてきたと思っていた矢先に、在留資格認定証明書交付申請の締切りが1ヶ月ほど早まり大変困っている。その点について大専各からも法務省に働きかけていただきたい。
- ・水際措置で入国が叶わなかった時期に、日本語教育関連団体が政府に連名で働きかけを行ったが、専修学校で留学生の占める割合が大きくなる中、大専各さんの協力も仰ぐことができればさらに効力が期待できると思います。
- ・今後とも、留学生に関わるイベントの頻度や深度を前に進めてくださることを期待します。
- ・今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。
- ・イベントや研修は授業と重なると参加できません。
- ・大学ではなく専門学校、という進路を選ぶ学生はまだ多くないので、卒業後の強みなどをもっと学生に伝えたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・私費留学生への奨学金拡充を望みます。
- ・寮などの提供

(注釈:表記は原文ママ)

令和4年度文部科学省委託事業  
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する実態把握アンケート調査報告書  
[日本語教育機関対象]

発行日 2022年12月 第1版

受託 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

編集 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会  
(データ集計・分析 株式会社アクセスネクステージ)

住所 〒534-0026 大阪府大阪市都島区網島町6-20 大阪私学会館1F

TEL 06-6352-0048 FAX 06-6352-7553

大専各サイト <https://daisenkaku.or.jp>

大専各留学生支援サイト <https://study-osaka.com>